

# 天地

ネットワーク テーブル 515号

天地シニアネットワーク 2021. 1・18

TENTI TODAY <コメント><受信メール・資本論>			1
会員の広場			3
随 想	英会話の楽しみ(13) < it を含む構文 >	伊那 闊歩	3
論 考	中国人から見た日本人の言語表現理(21) くせとして隠す心理ーその1ー	愈 彭 年	8
随 想	ハリウッド映画じゃあるまいし	臺 一郎	9
事務局			10

\*\*\*\*\*

## TENTI TODAY

\*\*\*\*\*

新年のご挨拶が遅くなりましたが、本年もよろしく願い申し上げます。今年はコロナの地雷をいつ踏むかという緊張を抱えながらの一年となりそうです。政府の取り組み姿勢に不安を感じますので、個人々の注意、努力が一番大事と考えています。

\*\*\*\*\*

昨年夏に PSA の数値が上がり検査を受けたところ、前立腺がんと診断されました。治療はまだ間に合うとのことで、ホルモン治療、放射線治療とつづき、先週の14日に完了しました。治療結果の判明は先ですが主治医の先生は問題なしと言っていますので安心してます。放射線治療は37回続きましたので、その間多くの方と知り合いになりましたが、前立腺がんに対する不安は、ほとんどの人が感じて無いように見受けられました。新型コロナで医療体制の崩壊が心配されています。その他治療への影響が出ないと良いのですが・・・

\*\*\*\*\*

内閣の支持率が急落と報じられていますが、代わる人材、受け皿が見当たらないようで心配です。菅首相、東北人らしい朴訥とした感じが見えて好感はもてるのですが、政治家としてはスケールが小さく見えて有事での附託には不安があります。国会が休会中、ほとんど顔の見えなかった国会議員、菅内閣の自壊をじっと待つっていると勘繰りたくなります、民意という地雷を踏む可能性大です。

\*\*\*\*\*

今年は丑年、日本人にとって「牛」は古くから身近にあって、親しみやすい動物です。牛にあやかって一年を期待する向きも多いようですが、漢字の牛偏が300以上ある如く、漢字に現れる「牛」は複雑です。「牡」、「牝」、「牟」、「牢」、「物」、「牧」、「犧」、「牲」、「特」、「牽」、「犀」、といった漢字をみると、「牛」は広範囲に登場します。今年は、<多種、多彩>な一年となりそうです。

\*\*\*\*\*

野球、サッカー、駅伝、ラグビーなど、ビッグスポーツのシーズンが終了し、

気分的に落ち込んでいましたが、大相撲初場所が始まり気分が晴れてきました。今場所も横綱不在ですが、かえって、力いっぱい真剣な相撲が続いているようで見応えがあります。どのスポーツでも同じですが、スター選手不在でも、出場する選手が、精魂込めたプレーを見せてくれると楽しさが倍増します。

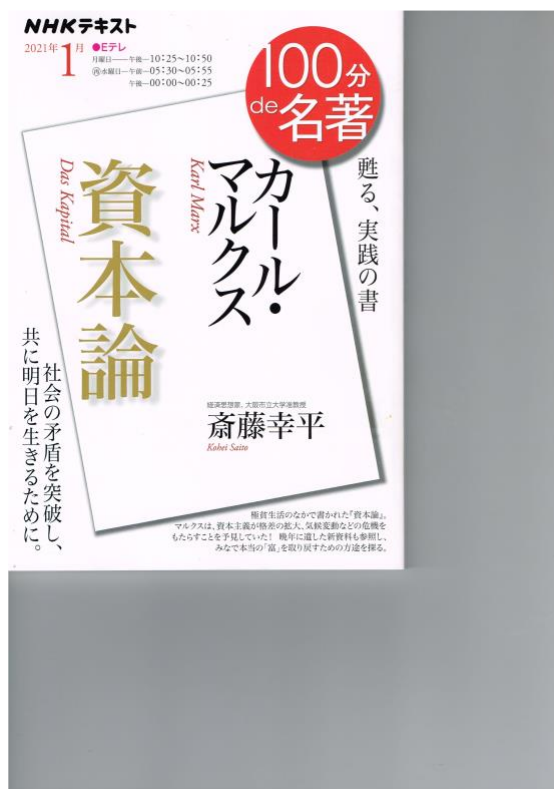
\*\*\*\*\*

## 北川新十郎さんからのメール

お早うございます。アルガンオイルの朝食が終了、最近鼻水が止まらぬ事が発生し始めアルガンオイルを湿らした綿棒で鼻の奥迄差し込み、塗り付ける事をしましたら、見事に止まっています。

妹からの電話で「伊集院光の etv,100 分で名著が面白かった」とあり、その話の中に、「資本論」が出て来たとの話がありました。ひょっとすると彼かな？と思い、ネットで検索、斎藤兄にも確認したところ、ご子息とのことでした。先日、購入していただいたとの話を思い出し、一応お知らせしなきゃと思いメールをします。

なお、1月16日(土)の朝日新聞の読書欄でも紹介されています。



\*\*\*\*\*

## アルガンオイル

数年来、朝食にトマトを1個、温めてからアルガンオイルをかけて食べます、また、保湿力が強く、さらに顔にできたイボをとるのに効果があるので、顔にそのまま使用しています。(津田)

天地シニアで未だ取り扱っています。@1500円(送料込み)

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

### 英会話の楽しみ(13)

伊那 闊歩

## 英会話の楽しみ

### 13. it を含む構文

#### 1. アメリカ大統領選挙

2020年11月、米国で大統領選挙というビッグ・イベントがあり、メディアを通じて何回も報道されている通り、民主党のジョー・バイデン前副大統領が当選し「勝利宣言」演説を行った。そこで、今回のテーマ「it を含む構文」にとりかかる前に、その演説の中から以下に印象的な部分をピックアップしてみようと思う。演説は次のようにはじまる:

**Folks, the people of this nation have spoken.** (皆さん、この国の皆さんはその意志を表明しました)

ここで **speak** には「話す、喋る、演説する」のほかに「自分の意志を明確に表わす」という広義の意味があることに注意されたい(\*1)。つづいて

**I pledge to be a president who seeks not to divide but unify, who doesn't see red states and blue states, only see the United States.**

(私は分断ではなく結束を求める大統領になることを誓います。赤い州や青い州を認めるのではなく、ただ合衆国だけを視野に入れていきます)(\*2)

日本の政治家は公式の場で私的な家族の状況などを紹介することは未だに稀であるが、バイデン氏は夫人ジルを積極的に誉めそやす:

**Jill is going to make a great first lady. I am so proud of her.** (ジルは偉大なファーストレディーになるでしょう。私は彼女をととても誇りにしています)

成るという意味を **be** ではなく **make** と強調しているのだ。多様性(**diversity**)を重んずる大統領として、副大統領候補カマラ・ハリスの出自に言及し同時に彼女がいかに有能であるかをあまねく印象づける:

**You just heard from Kamala Harris, who makes history as the first woman, first Black woman, the first woman from South Asian descent, the first daughter of immigrants ever elected in this country.**

(皆さんが今(その演説を)聞いたばかりのカマラ・ハリスは、歴史を作った最初の女性です。黒人女性として最初に、南アジア系の女性として最初に、移民の娘として最初に、この国の副大統領に選ばれたのです)

It's time to put away the harsh rhetoric, lower the temperature, see each other again. Listen to each other again. (今は、ののしり合いをやめ、頭を冷やし、再び互いを見つめ直す時です。再び互いの言葉に耳をかたむけましょう)

新型コロナ対策が述べられたあと、アメリカの本来あるべき姿について

I've always believed we can define America in one word: possibilities. That in America, every one should be given an opportunity to go as far as their dreams and God-given ability will take them. (アメリカは一つの言葉で定義できるとつねに信じてきました: 可能性です。アメリカではすべての人が自分の夢がかなえられ、神から与えられた各自の能力をもって、それを実現する機会が与えられているべきであります)

演説の常套手段としてひとつのキャッチフレーズを設定し、そのキャッチフレーズのもとに主張すべきことを羅列し畳みかけて話しかけることにより、聴衆を圧倒するのだ。キング牧師の A hundred years later や I have a dream. はたいへん印象的なキャッチフレーズであった。バイデン氏のキャッチフレーズは Ahead to an America である:

I believe in the possibilities of this country. We're always looking ahead. Ahead to an America that is freer and more just. Ahead to an America that create jobs with dignity and respect. Ahead to an America that cures like cancer and Alzheimer's. Ahead to an America that never leaves anyone behind. Ahead to an America that never give up, never gives in. This is a great nation. (私はこの国の可能性を信じています。私たちは常に前を見据えています。より自由で公正なアメリカへ。尊厳と敬意ある仕事を生み出すアメリカへ。ガンやアルツハイマーのような病を治すアメリカへ。誰も置き去りにしないアメリカへ。決してあきらめず屈しないアメリカへ。これこそ偉大な国です)

バイデン氏はその信仰について述べたあと演説をしめくくるのだが、日本では政治家がその信仰を明確に表明することは決してないと言えれば言い過ぎであろうか。この後12月15日のスピーチで

Now it's time to turn the page as we've done throughout our history to unite and to heal. (今は、私たちが私たちの歴史を通じて結束と癒しのために為してきたようにページをめくる時であります)

(\*1) なお、日本語訳は、東京新聞の全文完訳版を参照させていただいた。

(\*2)「誓う」という言葉はこの他に vow, swear, oath (名詞) などがあって、英作文の難しさは、どの単語が最適か選ぶことにある(日本語も同じだが)。新約聖書「マタイによる福音書」5章33~37には「誓ってはならない」というイエスの言葉「Jesus Forbids Oaths」があり、そこには swear と oath が使われている。赤い州(共和党優勢州)、青い州(民主党優勢州)は日本でもすでに常識になっている。

## 2. it の入った構文

今回は文法上の主語と意味上の主語がある構文、即ち **there is/are** 構文について調べた。ちなみにフランス語では **Il y a** という構文があってこれが単数複数の区別なく英語の **There is/are** 構文に相当する。**Il y a** を英語に直訳すると **It (il) there (y) have/has (a)** となり日本語に直訳すると「それが(**il**)そこに(**y**)持っている(**a**)」となる。

では「それ」とは何であろうか。多田道太郎氏(\*3)は「それ」とは「神」であるという。つまり「物がそこにある」とは「神がものをそこに持っている」ことなのだという。日本的な発想と西欧的な発想の違いのヒントがこういうところにあるのだろうか。ともあれフランス語では **There is/are** 構文は **It** の入った構文の一種なのだ。

**It** を使った慣用表現が英語にはじつに多い。たとえば

**It's Friday [December 11th] today.** (今日は金曜日[12月11日]です)  
[日付、曜日]

**What time is it? It's a quarter past three.** (何時ですか。3時15分過ぎです) (\*4) [時間]

**How far is it from here to the moon?** (ここから月までどれくらい(距離)あるかなあ) [距離]

**Awfully cold this morning, isn't it?** (今朝はえらく寒いな) (\*5) [寒暖]

**Miserable weather, isn't it?** (ひどい天気だな) [天候]

**It was dark outside.** (外は暗かった) [明暗]

**Who is it? It's me.** (\*6) (どなたですか? 私です) [状況]

**It** が **that** 節や **to** 不定詞、動名詞などの仮(形式的)主語となり作られた構文 [**It ~ that ~**], [**It ~ to 不定詞 ~**], [**It ~ 動名詞 ~**]などは英字新聞などにも頻出する。この時 **It** は仮の主語と呼ばれる。**It** が主語になることにより文章が頭デッカチになることを避けるのである。たとえば;

**It is essential that the Self-Defense Forces and the U.S. military deepen their trust through joint exercises and other measures.** (自衛隊と米軍が共同演習やそのほかの政策を通じて、信頼を深めることが不可欠である)

**It is important to improve the employment environment for young people and support them in having families.** (若者の雇用環境を改善し、家庭を持てるよう支援することが大切だ)

**It is convenient living so close to the station.** (こんなに駅の近くに住んでいると便利ですよ) (\*7)

**It seems that ~** もしばしば現れる便利な構文である。動詞 **seem** のほかに **appear, look, happen ...** などもよく使われる:

**It seems (to me) that she is right. (= She seems (to me) to be right. )**  
(彼女は正しいと思える)



(\*3) 本田勝一「日本語の作文技術」(朝日文庫)のあとがき

(\*4) 時間のききかたはいろいろある。中でもよくきくのは **Do you have the time?** この定冠詞をはぶいて **Do you have (some) time?** と言えば「時間ある？」という意味になる。

(\*5) **isn't it** を文頭にもってきて **Isn't it awfully cold this morning?** としても **It is awfully cold this morning, isn't it?** としても良いのだが、いきなり主語なしで話しかけることも多い

(\*6) ドアをノックする音を聞いたときの会話。

(\*7) 江川泰一郎「英文法解説」(金子書房)

### 3. It の入った構文(つづき)

認知言語学の入門書(\*8)を読んでいる時にタフ構文に関して面白い解説に出会ったので、以下筆者の推論も交えつつご紹介しよう。

日本語で「この本を読むのはたいへんだ」という文章を英訳することとする。まず頭に浮かぶ素案は **To read this book is difficult.** なのだ。英語は頭でっかちを嫌う、つまり、長ったらしい主語を嫌うのでこれを一部ちぎって **This book is difficult to read.** とする。この構文を**タフ構文**という。訳は「この本は読むのに骨が折れる」と多少ニュアンスが違ってくる。

ところが英米人の感覚はこれでもまだ頭でっかちなのだ。そこで、仮の主語 **It** を持ってきて **It is difficult to read this book.** としてやっと違和感がなくなり落ち着くらしい。ここでさらに **It is difficult for me to read this book.**(私にとってこの本を読むのはたいへんだ)とすれば **It is ~ for ~ to 不定詞 ~** という構文で(私がこの本を読むのはたいへんだ)と訳すこともできて、意味上の主語 = 私がもうひとつ割り込んできたとも考えられる。

つまり文章は主語を3つもつことになり主語だらけになるが、これはとても便利な構文なのでさかんに使われる、たとえば SF 作家アイザック・アシモフの次の文章(少々長い)中にはこの構文がふたつ使われている:

**During the century after Newton, it was still possible for a man of unusual attainments to master all fields of scientific knowledge. But, by 1800, this had become entirely impracticable. As time went on, it was increasingly necessary for a scientist to limit himself to a portion of the field with which he was intensively concerned. (Isaac Asimov: What is Science ?)**

(ニュートンのすぐ後の世紀には、ずばぬけた学識の持ち主がすべての分野の科学知識を身につけることはまだ可能であった。しかし 1800 年までには、これは全く実行不可能になっていた。時代が進むにつれて科学者は自分が関心を持つ分野のひとつの部分にのみ限定して集中することがますます必要になった)

以上英語の仮主語について見てきたが、目的語についても、英語では長ったらしい目的語を嫌い、それを仮目的語 **it** で置き換える。たとえば

**I find it quite comfortable just relaxing like this.** (このようにゆっくりして  
いて気持ちいいですね \*9)

**I thought it best to keep silent.** (だまっているのが一番いいと思った \*10)

**I found it difficult to take pictures of the rainbow.** (その虹の写真を撮る  
のは難しかった \*9)

**I take it for granted that you have read this book.** (私は君がこの本を読ん  
だものと思っている)

**I think it doubtful whether or not they will ever come back.** (彼らが  
いつか戻ってくるかどうかは疑わしいと思う \*9)

(\*8) 西村義樹、野矢茂樹「言語学の教科書」(中公新書 2220)

(\*9) マーク・ピーターセン他「実践ロイヤル英文法」(旺文社)

#### 4. **it** を含む慣用句

人称代名詞 **it** を含む慣用句は実に多い。大津栄一郎氏によれば(\*10)、慣用句  
中の **it** は明確には特定できないあるもの、しかし 話者間ではこれだとすでに諒解  
のついているものであるという。たとえば、

**That's it.** (それだ! )、**I mean it.** (本気だぞ)、**Take it easy.** (気楽にやれ)

**I did it.** または **I've done it.** (やった! )、

**Have you got it?** ([僕のはなし]わかった?)、 **Keep it real.** (自分らしく行こう)

ビートルズのヒット曲 **Let it be** の中で

**Whisper words of wisdom, let it be.** (英知の言葉「なりゆきにまかせろ」と  
ささやくが良い)

また映画「アナと雪の女王」のヒット曲 **I'm free. Let it go, let it go. I am one  
with wind and sky.** (私は自由なのよ「ありのままでいいの」私は風と空と一緒な  
の)

**I've had a good time of it.** (楽しい時間を過ごした)、

などには意味のハッキリしない **it** が現れる。よく使われる慣用句に **make it** (うまく  
やってのける、成功する) がある。以下大津氏の本 (\*10)からの引用:

**He made a good job of it.** (立派にやった)

**You will make it if you hurry.** (急げば間に合うよ)

**She made it as an artist.** (彼女は画家として成功した)

**They made a day (a night) of it.** (いちにち中(一晚)遊びあかした)

\*\*\*\*\*

## 言語表現心理(四)

### くせとして隠す心理—その1—

加藤周一氏が『私にとっての20世紀』でおもしろいことを紹介している。それは、18世紀前半の富永仲基という学者が「くせ」について中国と日本とインドを比較して、中国人の「くせ」は、ものを誇張することであり、インド人は空想的な超現実的なことをいうことであり、日本人はものを隠すのが「くせ」だと言った。

「隠す」ことはどの国の人もすることであり、取りたてて言うほどのことではない。しかしそれが「くせ」であれば別問題となり、さらに言語表現心理にもつながるのではないか。

日本には「建前」と「本音」、「表」と「裏」、「外」と「内」の分け方がある。これらは「隠す」ことと関係があるようだ。

「建前」は「表」と「外」に向けての気持ちや方針であり、世間と当たり障りのないようになっているのが特徴だ。これは世間との和を保つ心理の現れであり、工夫が凝らされてきれいに聞こえる。しがって「本音」を隠す働きもする。

「本音」は本当の気持ちや考えであり、差し障りを起こしやすいため「裏」と「内」にあって、見かけの言動には表さない。世間との和を保つ考え以前のエゴ的打算的なのが特徴だ。

したがって「建前」によって隠される。「建前」は表に立ち、その裏に「本音」がひそむという二重構造は日本人の言語表現心理の特徴とも言えよう。世間と向き合うには和を保つための「建前」がなくてはならず、また生身の人間である以上世間と切り離れた「本音」はつきものという日本人の生き方を如実に表している。日本人がこれを割り切ってはつきりと使い分けるのに感心させられる。

「名にし負う」「名に背く」「名は体を現す」「名を惜しむ」「名を汚す」「名をすすぐ」「名を挙げる」などは本音を抑えた建前大事の精神が表れた言い回しとも言われる(2004年2月4日『朝日新聞』「天声人語」)。この論法でいけば、逆は「花より団子」「名を捨てて実を取る」になろう。

商店の「超特価大放出」「原価割れ続出」「日々の暮らしを超特価で大奉仕」「心弾む元気な暮らし! 毎日応援」などの宣伝は建前であり、本音は集客と販売促進だ。

このような建前と本音の見極めは難しくない。日本人の家の前に「猛犬に注意」という札が良く掛けられている。中国人はこれを見て日本人は訪問者に対して実に親切丁寧だと感心する。

だが日本人の友人が言うにはこの札にはふた通りの働きがあるとのこと、一つは字面通りの忠告の働き、もう一つは建前の働きでその本音は押し売りの撃退法だということ。建前と本音の中々おもしろい使い方だ。



本音を見極めるのが難しいことはたくさんある。したがって調査や分析などが必要になってくる。たとえばアメリカのイラクに対する戦争の建前はイラクにある大量破壊兵器の廃棄とイラクの国際テロ組織への支援阻止と言われているが、本音についてはいろいろの説がある。たとえばイラクの石油を確保するためとか、アラブ世界を支配するためだとかだ。

外国人、特に中国人の不法滞在問題が良くニュースとして新聞やテレビに出るため、中国人からよく聞かれる。日本は良く報道するが、なぜ厳しく取り締まらないのか。

わたしはいつもこう答える。日本では建前と本音というのがあってうまく使い分ける。不法滞在は法律違反だから取り締まる、これは建前であり、労働力不足の日本では外国人は安価な労働力で需要が高いから不法滞在を黙認する、これが本音だ。ちなみにいま日本にいる外国人は不法滞在者を含めて 200 万人といわれる。

日本の ODA はどうだろう。発展途上国の経済発展や福祉向上に対する援助や出資というのが建前だ。本音は日本と当該国との経済緊密化による日本経済発展と日本の外交カードになること。

日本の対中 ODA は中国の改革開放による近代化建設の支援が建前で、本音は始まりの 20 世紀 80 年代では賠償放棄と見返りのエネルギー確保だったと言われる。

中日関係でいうと、現在、友好は建前であり、本音は共通利益であろう。

\*\*\*\*\*

## ハリウッド映画じゃあるまいし

臺 一郎

1 月 6 日、米国ワシントンの連邦議会議事堂に乱入し、破壊行為を行ったトランプ支持者の多くは、カメラの前でポーズを取り、ジャーナリストに名前を伝えたという。このニュースの記事や写真を見て「本当に？」と驚愕しそして呆れた。

トランプは直前に支持者達の集まりでアジ演説を行い、議事堂までの激しいデモ行進をけしかけたという。トランプは今やまともではないが、彼のそそのかしに乗って議事堂に乱入した支持者というのも、世界最強の先進国の国民とは到底思えない。

現職の大統領とその熱心な支持者達がこんな有様では、世界は呆れ、国際社会における米国の影響力や発言力は確実に失われていくだろう。そして、米国のこうした状況を一番喜んでいるのは中国やイランやロシアなどの反米国家なのではないだろうか。

今の米国はただでさえコロナパンデミックで人的被害や経済力・軍事力への深刻なダメージを受けている。年明け 1 月 2 日の米国一日あたり新規感染者数は 29 万 9 千人、これまでの死者数は 35 万人で、累計の感染者数に到ってはなんと 2000 万人だ。

それに加えて、トランプ大統領の独善的な思想や強引な国家統治のせいで、米国は社会と国民の分断が最早簡単には修復不能なほど進んでしまっているように思えてならない。

今回トランプの支持者達が、警官隊のさほど激しい規制も抵抗も受けずに簡単に議事堂に乱入出来たのはデモ隊の殆どが白人だったからだという指摘がある。ニュース報道の写真や動画を見ると、なるほど乱入者は白人ばかりのように見える。

そしてもし乱入したのがもっぱら黒人やヒスパニックだったならば、警備の警官は躊躇無く銃を乱射したであろうとも言われている。

そうならなくて本当に良かったが、過去一年間に米国では白人警官による黒人市民の射殺や過失致死的な事件が何件も起きていることから、もし黒人やヒスパニックが議事堂に乱入したなら、警官との間で激しい衝突があったとしても不思議ではないように思える。

こんな状況下で、もし台湾有事が起きて米中の軍事対立が起きたならば、米国はもう中国には勝てないかもしれない。共産党が独裁的に国家統治をする中国は、コロナ惨禍をほぼ克服し、他のどこよりも早く経済を回復させ、凄まじいペースで軍事力の増強を進めている。

日本政府は今後国際社会で起こりうるあらゆる事態について可能性を分析・検討し、その対応や戦略やスタンスを考えておく必要があるのだが、さて現内閣にその能力や知恵や決断力はあるのだろうか？

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

<投稿>を歓迎します。

天地シニアネットワーク・テーブル・515号

発行：2021年1月18日

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-

1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：[tentisenior06@gmail.com](mailto:tentisenior06@gmail.com)

電話 03-3819-7651